

令和5年度 外海黒崎小学校 学力向上プラン

＜学校教育目標＞
校訓「じぶんから みんなと いっしょうけんめい」の具現化をとおして、社会を生き抜く力を身につけた子どもを育成する。

- 重点目標**
- 基礎基本の確実な定着（漢字や言葉の習得，確実な計算力）・取組の継続
 - ・「生きて働く」知識・技能の育成
 - ・CRT 国語・・・全国平均比 90～95 を目指す。
 - ・CRT 算数・・・全国平均比 95～100 を目指す。
 - 思考力・表現力の育成
 - ・CRT 国語・・・全国平均比 85～90 を目指す。
 - ・CRT 算数・・・全国平均比 90～95 を目指す。
 - ・業者テスト・・・思判表 2 ポイント上げる。
 - 学習規律の定着（全校統一『学習の約束』）
 - ・学習用具の約束 ・授業前・授業中・授業後の約束 ・発表の仕方の確立

-市学力・・・全国平均を 1～2 ポイント上回る。
 -県学力国語・・・県平均比 90～95 を目指す。
 -県学力算数・・・県平均を 3 ポイント上回る。
 -全国学力・・・全国平均を 2 ポイント上回る。

-市学力・・・全国平均を 1～2 ポイント上回る。
 -県学力国語・・・県平均比 90 を目指す。
 -県学力算数・・・県平均を目指す。
 -全国学力・・・全国平均比 100～105 を目指す。

- ＜第 6 学年＞
 [全国学力調査 国語]
 ○ 「書くこと」においては，全国平均を上回っている。特に「図表やグラフなどを用いて，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」は全国平均を上回っている。
 ○ 「読むこと」においては，全国平均を下回っている。特に「文章や図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること」は全国平均を大きく下回り，「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめること」は全国平均を下回っている。
 [全国学力調査 算数]
 ○ 「データの活用」においては，全国平均を上回っている。特に「二次元の表から，条件に合う数を読み取ること」は全国平均を大きく上回っている。
 ○ 「図形」においては，全国平均を下回っている。特に図形の意味や性質について問われる問題や，面積の大小を判断する際，理由を言葉や数を用いて記述する問題に課題が見られる。
 ○ 「変化と関係」においては，全国平均を大きく下回っている。特に「比例の関係でないことを説明するために，表の中の適切な数の組を用いること」は全国平均を大きく下回っている。
 [県学力調査 理科]
 ○ 「エネルギー」「粒子」「生命」においては，県平均を上回っているが，「地球」においては，県平均をやや下回っている。
 ○ 短答，記述問題においては，県平均を上回っているが，選択問題においては，県平均をやや下回っている。
 <第 5 学年>
 [県学力調査 国語]
 ○ 「話すこと・聞くこと」「読むこと」においては，県平均を上回っている。特に「読むこと」は県平均を上回っている。
 ○ 「書くこと」のみ，県平均をやや下回っている。
 ○ 記述問題においては，県平均をやや下回っており，課題が見られる。
 [県学力調査 算数]
 ○ どの領域においても，県平均を上回っている。特に「測定」「変化と関係」においては，県平均を上回っている。

- ＜第 4 学年＞
 [市学力調査 国語]
 ○ どの領域においても，全国平均を下回っている。
 ○ 「書くこと」においては，全国平均を大きく下回っている。特に「指定された長さで文章を書くこと」「段落の役割について理解し，2 段落構成で文章を書くこと」に課題が見られる。
 ○ 「読むこと」においては，全国平均をかなり大きく下回っている。特に叙述を基に文章や段落の内容を捉えること」「中心となる語や文を見付けて要約すること」に課題が見られる。
 ○ 無回答が多い。
 [市学力調査 算数]
 ○ どの領域においても，全国平均を上回っている。
 ○ 「思考・判断・表現」においては，全国平均をやや下回っており，課題が見られる。
 <第 3 学年>
 [市学力調査 国語]
 ○ 「書くこと」のみ，全国平均をやや下回っている。特に「指定された長さで文章を書くこと」「経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，文章を書くこと」に課題が見られる。
 [市学力調査 算数]
 ○ 「測定」のみ，全国平均を下回っている。特に「長さ・かさ」「時こくと時間」に課題が見られる。

- ＜第 2 学年＞
 [1 学期業者テスト]
 ○ 算数「思考・判断・表現」において，正答率が本校の量的な評価基準における○評価（80%以上 95%未満）を下回っている。
 <第 1 学年>
 [1 学期業者テスト]
 ○ 算数「思考・判断・表現」において，正答率が本校の量的な評価基準における○評価（80%以上 95%未満）を下回っている。

外海スタンダード（思考力・表現力向上に向けた取組）

◆普段の授業づくり◆	◆学習意欲の向上◆	◆家庭・地域との連携◆
<導入> ・児童の気付きから始まる授業 ・児童の発想・思い・関心を生かす学習課題（めあて） <展開> ・話型の提示（相違「〇〇さんの考えとは違って～」類似「〇〇さんの考えと似ていて～」追加「〇〇さんの考えに付け加えて～」変容「はじめ私は～と思っていましたが〇〇さんの考えを聞いて～に変わりました」比較「…と…を比べて、～が分かりました」） ・身体性を伴う読み（声に出す，線を引く，大事な言葉を○で囲む） ・各学年の学習に必要な図や表をかく（テープ図，線分図，数直線図） <終末> ・児童の記憶に残る学習のまとめ（重要語句やキーワードを使って児童に書かせる） ・振り返りの設定（分かったこと・できたこと＋自分で考えたこと）	○「わかる」ことの楽しさを感じる授業 ・認知機能の強化（コグトレ） ・多様な「問いと答え方」に慣れる →・対話の活性化 ・自己の力の伸びを適切に見取る ・教材教具の工夫（資料室の活用） ・ICT 機器の活用 ○教育掲示，言語環境の充実 ・教室掲示・・・学級目標をふまえた学びの成果の共有化 ・校内掲示・・・学校目標をふまえた学びの成果の共有化	○ 家庭学習の習慣化，保護者・学童への周知 ・基本的な宿題形式の全校統一（漢字・計算・音読）とレベルに合わせた課題設定（キュビナの活用） ・「家庭学習の手引き」の定着 自学への取組向上・・・週 1 日で提出日を決めて出す，モデルの提示 ○ 地域住民，関係団体を巻き込んだ教育活動の推進 ・生活科・総合的な学習の時間を中心とした地域人材の活用 ・目的意識，相手意識を高めた活動や交流 ・学校図書館司書・図書ボランティア・学校サポーター（家庭科裁縫）との連携，駐在の立哨による安全意識の向上，大学との連携による学習

●基礎基本の定着	●基本的生活習慣●	●特別支援教育●	●ICT機器活用●	●指導体制●	●読書活動●
○ 漢字の読み書きの練習，四則計算練習，公式の習得 ○書くスキルの育成 ・鉛筆の持ち方，姿勢，速記	○「あ・は・は運動」の定着 ○用具等の準備と整理 ○「よいこのきまり」の定着 ○『そとめっ子』リズムカードの実施	○実態把握と指導の工夫 →「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成 ・専門機関との連携，巡回相談の活用 ・保護者啓発	・ICT 機器の効果的な活用（電子黒板，デジタル教科書）（クロームブック，電子書籍） ・校務のデジタル化 ・リモート学習の定着	・励みタイムの設定（週 1 回） コグトレ，練習問題 ・パソコンタイムの設定（週 1 回） タイピングスキル，語彙力向上 パソコンスキルの向上	・読書タイム（週 2 回） ・学校図書館司書との連携 ・学習との連動 （情報センターとしての図書室利活用）

■教師の指導力向上■

- 校内研修の充実（研究主題『ふるさとを愛する教育課程を通じた主体的・対話的で深い学びの育成～生活科・総合的な学習の時間を柱として～』）
- 子どもたちが安心できる落ち着いた学級経営
- 保護者との信頼感の構築

